

Get Heart

No. **36**
2006.11



特集

日野川流域の紅葉スポット

イベントレポート

「キノコを調べる会」

日野川の歴史

第2回 たたら製鉄と日野川

米子市歴史館運営委員長
杉本良巳さん

日野川「もの知りさんに聞いてみよう22」

河川愛護月間

日野川の流域には紅葉の見所がいっぱい！

今回ご紹介するのは代表的なところですが、この他にも各所に点在しています。

さわやかな秋の日に、艶やかな木々を見に出かけてみてはいかがでしょうか。あなたしか知らない紅葉スポットが見つかるかもしれません。

滝山公園 (日野町)

桜・ツツジの名所として有名な公園ですが秋の紅葉も楽しめます。公園内にある滝山神社の境内には、高さ70mの龍王滝などもあり、美しく整備された公園は町民の憩いの場ともなっています(黒坂駅から2km)



石霞溪 (日南町)

日南町生山にある石霞溪は南北12kmにわたる渓谷で、奥日野県立自然公園の景勝地です。北石霞溪は、女性的なイメージ、南石霞溪は男性的なイメージ。こぶし、たにいそぎ、桜、つつじ、藤、紅葉と、四季折々の姿が遊客の目を楽しませてくれます。



鍵掛峠 (江府町)

目の前に迫る大山の南壁はダイナミック。春の新緑から秋の紅葉まで、四季折々の大山の雄大な姿を楽しむことができます。大山山系で一番の景勝地といっても過言ではありません。



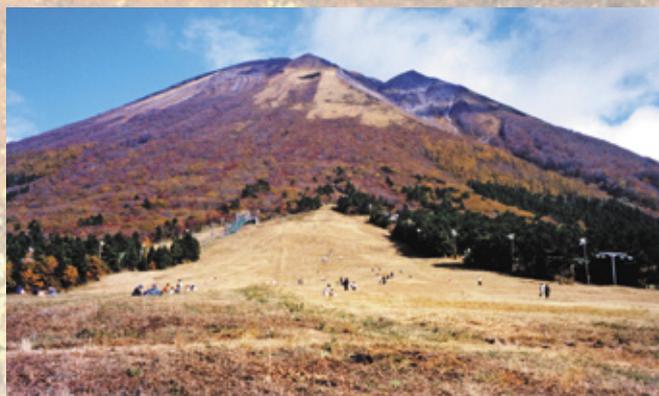
木谷沢 (江府町)

エバーランド奥大山から徒歩3分、木谷を流れる船谷川源流に沿って、小鳥のさえずりの中、紅葉の渓流が楽しめます。



柘水高原 一の沢・二の沢・三の沢 (伯耆町)

山頂を背景に、なだらかな丘陵が続く柘水高原は、高原ならではのアクティブな体験が四季を通して楽しめます。付近には湧き水も多く、紅葉を楽しみながら高原リゾートを満喫できます。そして、柘水高原から江府町方面目へぬける大山周遊道路の途中に大山の南壁から流れ出る土砂からなる沢があります。この付近はドライブがてら紅葉を楽しむ姿が多く見うけられます。



「キノコを調べる会」に行ってきました!!

秋本番になってきました。

山の秋の幸といえば、柴栗、アケビ、山芋、ムカゴ、ヤマブドウ……でも、やっぱり秋といえば「キノコ」ですね。というわけで、10月1日に開催された野外観察会「キノコを調べる会」に行ってきました。

当日は、雨の降る中でしたが、定員いっぱいの申込みがあり、約40名の参加があったようです。この「キノコを調べる会」は、鳥取県東部で3年、中部で3年、西部で3年といった順番で行われ、一昨年、昨年、今年とここ伯耆町日光公民館(伯耆町大瀧)で行われています。

10時に日光公民館に集合、ここで「クマは、いません。マムシ・ハチに気を付けましょう。」といった諸注意を受け、いざ出発……!!



「残念ながら雨でした。晴れていたら大山がきれに見える場所ですが、かすんでいました。」

採取場所は、自衛隊の日光演習地です。地元の人は、忠魂碑原とっていて、忠魂碑が建っていますが、残念ながら勝手には入れません。そういえば、小学校、中学校のわらび取り弁当を食べた記憶があります。

さて、日頃の行いが悪いのか、当日は、けっこういい雨が降っていました。大山も雨でよく見えません。長靴にカッパを着て、いざ藪の中へ……。



「発見 ニセアブラシメジ? 食べられるか判らないので、ちょっとしか取ってきませんでした。残念」

実は私、キノコについては、全くの素人で、食べられるキノコ、食べられないキノコ、全く分かりません。というわけで、種類をたくさん取ることにしました。20種類くらいのキノコを採ったかな?

根こそぎ取ってこなかったため、後で聞けば、「こりゃ、うまいに〜」といわれたキノコもあり、残してきたことを後悔しています。

約1時間30分採取した後、集合場所の日光公民館へ戻り、キノコの種類を調べ、仲間毎に分類し、食べられるキノコが、

毒のあるキノコかを日本きのこセンター菌茸(きんじん)研究所の長沢栄史さんに教えていただきました。

ちなみに、菌茸研究所は、文部科学大臣・農林水産大臣共管の、きのこ関係ではわが国唯一の学術研究機関で鳥取市にあるそうです。

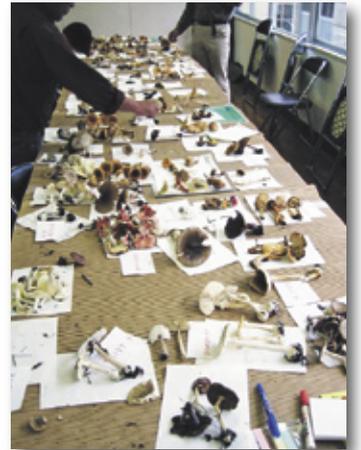


「同定中の講師の長沢栄史さん」

種類が多くて、これはとっても覚えられません。全部で100種類以上あったように思います。私が知っているキノコといえば、シイタケ、マツタケ、シメジ、マイタケ……といった

スーパーで売っているものしか判りません。ここにあるキノコでは、残念ながらこれらの姿を見ることはありませんでした。

アマタケ(地元ではスイドウシと呼んでいます)、ハツタケ(アイタケと呼んでいます)、ニセアブラシメジ、残念ながら今回山に入っても間違いなく取ってこれるのは、これくらいです。うーん、真剣さが足りないかも。



「すごい種類のキノコ 写真は1列分。3列あります。こりゃー、覚えられません……」

早速、家に帰ってキノコを煮てみました。

「ナスと一緒に料理すると毒があっても食べられる」というのは、迷信ですが、「お前が取ってきたものは、怪しい。あたる!!」などといわれ、結局、ナスと一緒に煮る羽目になりました。



「アマタケ(スイドウシ)を煮てみました。フリフリした食感。秋を感じました。」

キノコは、一朝一夕には覚えられそうにはありませんが、山に入ると幸を見つけるのは、とっても魅力的です。

さて今週は、裏山にでも入ってみようかな……。

(編集委員 T. I.)

日野川の歴史

第2回 たたら製鉄と日野川

杉本 良巳さん（米子市歴史館運営委員長）

明治35年の山陰線日野川鉄橋の写真をみると、川床は土砂で埋めつくされ、広い川原が出現している。こうした状況は江戸時代から続く日野川の本風景であった。

日野川の上流には風化した花崗岩(まさ)の層があり、中に良質の砂鉄が含まれているため、まさを崩して鉄穴(かな)流しと呼ばれる方法で砂鉄を採取し、ふいごを使った「たたら製鉄」によって鉄鋼を生産していた。まさに含まれる砂鉄は土くれ1升到耳かき1杯といわれるほど少量のため大量のまさを崩す必要があった。

試算によれば元禄2年(1689)から大正9年(1920)までの231年間に2億5,000m³(神戸港人工島3つ分)の土砂が日野川から美保湾に流出したという。この土砂が日野川の川床を埋めつくし、洪水を引き起こし、人家・耕地に大きな被害をもたらした。藩の記録によれば享保4年(1731)に土砂が流入して耕作不能になった田の石高が6,596石分あり、さらに天明6年(1786)には3万8,062石と増加した。1石は米俵2.5俵であるから仮りに1反当たり4俵とすれば2万3,788.75反となり、約2,379町歩が潰れ田となったことになる。

特に被害の大きい会見郡は藩に働きかけ、鉄穴流しによる土砂の撤去を製鉄業者に負担させたりもしたが焼け石に水であった。日野郡の製鉄業は郡民の経済と深く結びついていて、砂鉄の採取を止めれば、「たたら」や大鍛冶は休業となり、鉄山で働く労働者に米を売りつけることができなくなる。奥日野は年貢米を藩倉に収めることが困難で、米を売却した代金を収める金納制になっていたため、「風が吹けば桶屋が儲かる」式の連鎖反応で、忽ち年貢は滞納し、さらに鉄山師からの運上金(営業税)も滞って藩財政を圧迫する。日野郡の農民にとっても藩にとっても砂鉄採取は止めることのできない存在であった。

明治26年(1893)10月、日野川が大氾濫したとき、米子町をはじめ日野川下流域の車尾・日吉津・小波・中間・今在家・上新印・古豊千・岸本・諸木・大殿・五千石・上安曇・兼久・西大谷・橋本など1町15村の有志が上京して政府に「たたら製鉄」の適当な処置について陳情した。それに対

して製鉄業者は「川床が高くなるのは大山の岩石崩壊こそが主たる原因である」と反論した。確かに江尾川・俣野川・大江川・別所川など大山系の川は大量の岩石を日野川に流出し、日野川の下流ではそれら安山岩系の石を堤防工事に使っていた。

ところで日野川の流出土砂はその原因が何れにあるにせよ、洪水の原因であることは間違いないが、流出土砂のプラス面も見逃せない。奈良時代に編さんされた『出雲国風土記』には、国引き神話で余りある土地を引いた綱が「夜見島」になったと書かれている。その島が日野川の流出土砂によって本土と繋がれ、弓形の美しい砂州が出現した。

室町時代の応永5年(1398)に編さんされた『大山寺縁起絵巻』には、その姿が描かれている。「弓ヶ浜」の誕生である。絵を見ると、弓ヶ浜は細っそりとしているが、たたら製鉄の最盛期である江戸から明治にかけての時代、大量の流出土砂によって皆生海岸は年々2~4mずつ沖合へと広がっていった。その広がりが止まり、逆に年毎に海岸の砂地が減少していったのは大正10年(1921)ごろからである。洋鉄に押されてたたら製鉄が中止になると、土砂の流出が激減して、皆生海岸は浸蝕に悩まされることになった。さらに第2次大戦後、防災を目的とした砂防ダムの建設が土砂の流出をくい止め、日野川下流の安全性は高まったが、逆に弓ヶ浜の海岸浸蝕は一層の緊急課題となってきている。



日野川鉄橋 明治35年



水のうオッチング

—表紙 虹の架け橋—

大空に架かる虹、時代を超え、世代を超えて、私達の心を捕えて離さないことでしょう。

第8回 日野川フォトコンテスト入賞作品 一般Aの部 野坂 正昭さん

撮影場所：日野町日野 日野川

日野川流域 ものしり手帳

日野川、 もの知りさんに聞いてみよう・22

か せん あい こ げっ かん
河川愛護月間

国土交通省では、昭和49年(1974年)から毎年7月を「河川愛護月間」と定め、河川愛護運動を実施しています。

この月間は、河川についての理解と関心を深め、地域住民、市民団体と関係行政機関等による流域全体の良好な河川環境の保全・再生を積極的に推進し河川愛護の思想について、広く皆様にご理解いただくことを目的としています。月間中は、全国各地で、多様な活動が実施されます。

今回は、日野川河川事務所で今年度実施した行事をいくつか紹介します。

7月2日(日)『日野川一斉清掃』

日野川上・中流域の日南町、伯耆町は雨のため中止になりましたが、約3,000名の地域の皆様のご協力のもと実施されました。



7月6日(木)『日野川七夕交流会』

伯耆町立溝口保育所の年長組さんを伯耆町溝口の日野川河川敷に招き、七夕飾りや水辺の生物を調べるなどして遊びました。



8月5日(土)『日野川子どもモニター集合!!』

今年度、鳥取県日野総合事務所と国土交通省日野川河川事務所が募集した「日野川子どもモニター」を対象に日野町にある「カヌーの里」でカヌー体験や水質・水生生物調査を行いました。





イベントあんない INFORMATION



●伯耆町

「榎水高原スキー場開き祭」

平成18年12月23日(祝)

問い合わせ先……伯耆町役場産業振興課

商工観光室

TEL 0859-62-0714

「きないや祭り」

平成18年11月18日(土)・19日(日)

問い合わせ先……伯耆町役場産業振興課

商工観光室

TEL 0859-62-0714

●日吉津村

「ふれあいフェスタ'06ひえづ」

平成18年11月4日(土)・5日(日)

問い合わせ先……日吉津村役場 教育委員会事務局

TEL 0859-27-0211(代)

●南部町

「全国柿の種吹きとばし大会」

平成18年11月23日(祝)受付開始・10:30～ 開会
・12:00

問い合わせ先……南部町役場産業課内

「柿の種吹きとばし大会」事務局

TEL 0859-64-3783

●江府町

「第3回 日野郡新そばまつり」

平成18年11月5日(日)

開催場所：鳥取県日野郡江府町江尾

(江府町防災情報センター)

問い合わせ先……日野郡そば研究会

(鳥取県日野総合事務所県民局内)

TEL 0859-72-2086



編集後記

暑かった夏も終わり、すっかり涼しくな
って朝夜は肌寒ささえ感じる季節となりました。
今回は、特集として日野川流域の紅葉ス
ポットを紹介いたしました。この地方は、す
ぐ近くに山や川、そして海もあり四季折々の
情景を楽しめるとも良い地域です。山々が
紅色に染まっていく姿をすぐ間近で見ること
が出来ます。みなさんも秋の暖かい日に出
かけてみてはいかがでしょうか。

Y. M

あなたのこころを

GET HEART

GET HEART 第36号

発行

・日野川への想いを語る会

編集事務局

・国土交通省日野川河川事務所

〒689-3537

米子市古豊千678

TEL (0859) 27-5484

ホームページアドレス <http://www.cgr.mlit.go.jp/hinogawa>

「川」について、
意見、質問、要望、
何でもええけ、便
りこしない。待つ
ちようけんね。

